

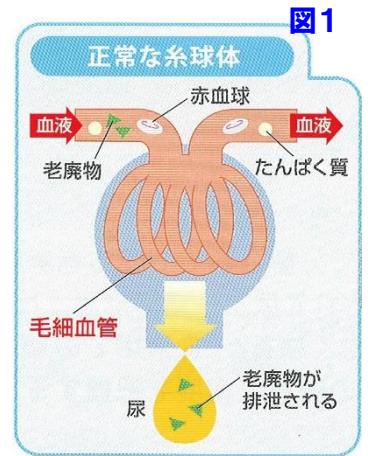
大切な腎臓を守るために ～最近の薬について～

産業医 田名 毅
首里城下町クリニック

産業医だよりでは、毎月私のクリニックで行っている 地域むけ医療講演会 YouTube 配信の内容を要約してお伝えしています。年頭の1月は毎年院長である私が担当しており、「大切な腎臓を守るために～最近の薬について～」というタイトルで話しました。以下に講演内容を要約し紹介致します。

1 腎臓が悪くなる仕組みについて

腎臓において尿を作る最小構成単位が糸球体です。図1のように毛細血管のコイルのようになっていて、血液がこの中を通る間に大切なものは再吸収され、不要なものが尿として排出されます。この糸球体に糖尿病や腎炎などが影響し、正常では出てくるはずがない蛋白や赤血球が漏れてくると腎臓病が始まっていることを示唆しています。



健康診断において蛋白尿がみられた場合、その程度によってその後の腎機能を17年に渡って追跡したところ、蛋白尿が多ければ多いほど将来腎不全になり、透析治療などを受ける確率が高くなることを図2は示しています。

図2 タンパク尿の程度と末期腎不全の発症率

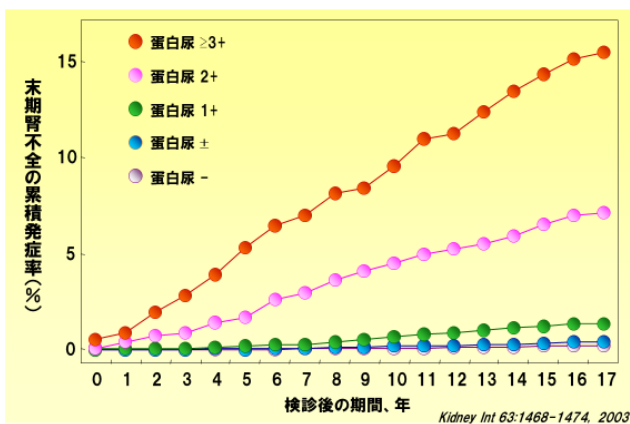
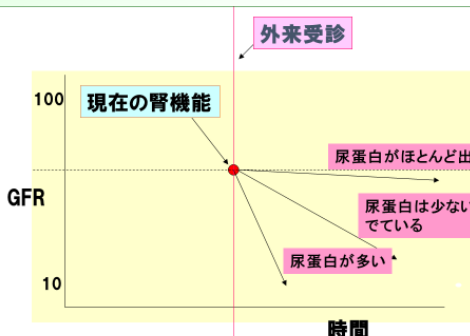


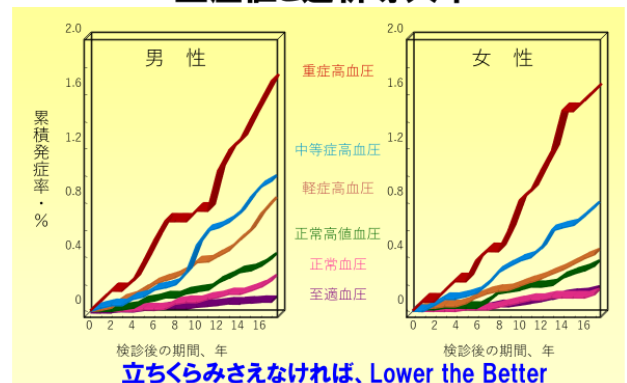
図3は、ある時点で腎機能が60%程度になっている方が将来腎臓が悪くなるかどうかを予測する場合、何が一番関係しているかを示しています。先ほどの図2からもわかるように蛋白尿が多いほど、将来早く腎臓が悪くなりやすくなることが予測されることを示しています。図4は健診における血圧分類別とその後の腎機能の推移を調べたものです。血圧が高い人ほど、将来腎不全になり透析治療が必要になっていることが分かります。

図3 腎機能を評価すること
- 今の立ち位置と腎機能低下の進行速度を考える



同じ立ち位置 (腎機能) であっても進行速度によって意味が異なる

図4 血圧値と透析導入率

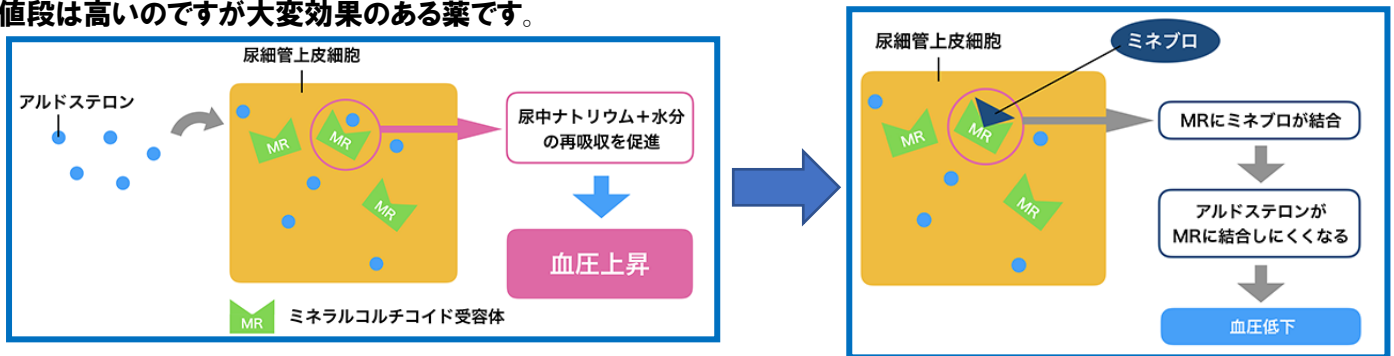


立ちくらみさえなければ、Lower the Better

2 腎臓の最近の薬

① **蛋白尿を減らす治療が腎臓を守るために大切である** ことが先ほどまでの説明でお分かりいただけたと思います。**アンジオテンシンⅡ拮抗薬**が医療界ではよく使用されています。最近はこれに加えて、**アルドステロン拮抗薬**を追加使用することで蛋白尿を改善することが期待されています。新薬のエサキセレン(ミネプロ)、フィネレノン(ケレンディア)がそれにあたりその効果が期待されています。

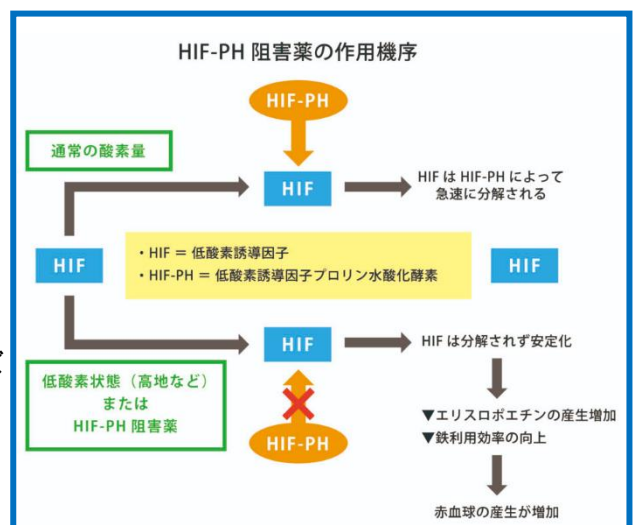
アルドステロン拮抗薬を追加するときには注意が必要なのが高カリウム血症の出現です。高カリウム血症が心配な方には野菜は生で食べずお湯でゆでて茹で汁は捨てる、生の果物は食べないなどのK制限指導を行います。しかし、それでも薬剤により高カリウム血症になることがあります。その際に使用される薬に**ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム化合物(ロケルマ)**があります。従来の薬と比較してカリウムを下げる効果が強く、よく使われるようになっていきました。値段は高いのですが大変効果のある薬です。



①のように血圧を下げる薬剤が腎臓病の治療の中心でしたが、最近では、②**糖尿病の治療薬である SGLT2阻害薬が腎臓にいい働きをする** ことが分かってきておりよく使用されるようになっていきました。この薬は体内の余分な糖分を尿から排出することによって血糖をよくするお薬なのですが、その他に蛋白尿を減らすことが分かっており、腎臓の薬としても承認(糖尿病でなくても使用できる)されています。すでに6種類の同薬が市場で使用されており、今後もこれらの腎臓への効果が期待されています。特記すべきこととして、尿に糖分が含まれるため細菌が繁殖しやすくなります。陰部のかゆみやおしっこをした時の痛み、残尿感などが現れた場合は医師にご相談ください。

③**最後は貧血の治療薬です**。皆さんは腎臓が悪くなると貧血になるということをご存じでしょうか？腎臓は尿を作るだけではなく、貧血にならないようにエリスロポエチンというホルモンを産生する働きがあるのです。以前はこのホルモンを毎月注射するしかなかったのですが、最近では**HIF-PH阻害薬という飲み薬で治療が出来る**ようになってきました。これまでは毎月注射で通わなければならなかった患者さんにとっては大変、福音になっている薬です。

エリスロポエチンは体内の酸素濃度が低下しても分泌されることが知られています。この反応を制御する物質が発見され、HIF(低酸素誘導因子)と名付けられました。体内に酸素が十分あるときにはこの物質は分解酵素(HIF-PH)により速やかに分解されますが、この酵素を阻害する薬剤を投与することにより、体内の酸素量が保たれている状態でもエリスロポエチンの産生が促進されることが分かりました。この仕組みを解明されたジョンズ・ホプキンス大学のセメンザ教授、オックスフォード大学のラトクリフ教授、ハーバード大学のケーリン教授が2019年ノーベル生理学・医学賞を受賞されました。



以上、腎臓に関する新しいお薬について話してきました。ご不明な点がありましたら、いつでも産業医にご相談いただけましたら幸いです。



第 224 回首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ：『脳外科なのに内視鏡？』

～低侵襲時代の神経内視鏡手術～』

日時：令和5年2月8日（水）午後7時～配信

講師：那覇市立病院 脳神経外科 我那覇 司 先生

YouTube 配信



その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、

あなたの **相談窓口** です！



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。
事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
認定産業看護師
公認心理士 **田名彩子**



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
與儀雅代



認定産業看護師
山城愛子



連絡先

首里城下町クリニック **働く人健康支援室**
098-885-5000

携帯 **080-4312-9200**(田名彩子)
メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！